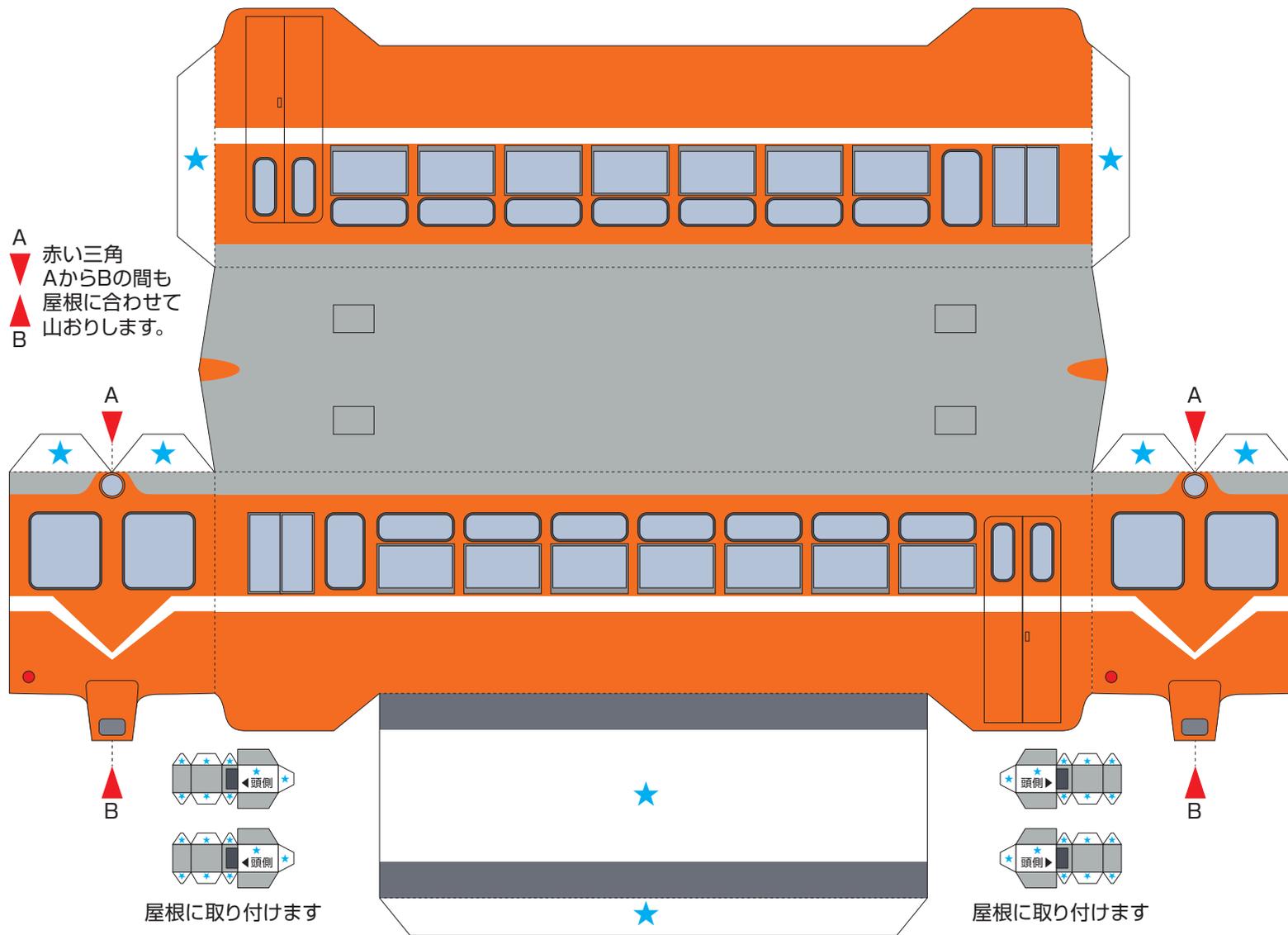


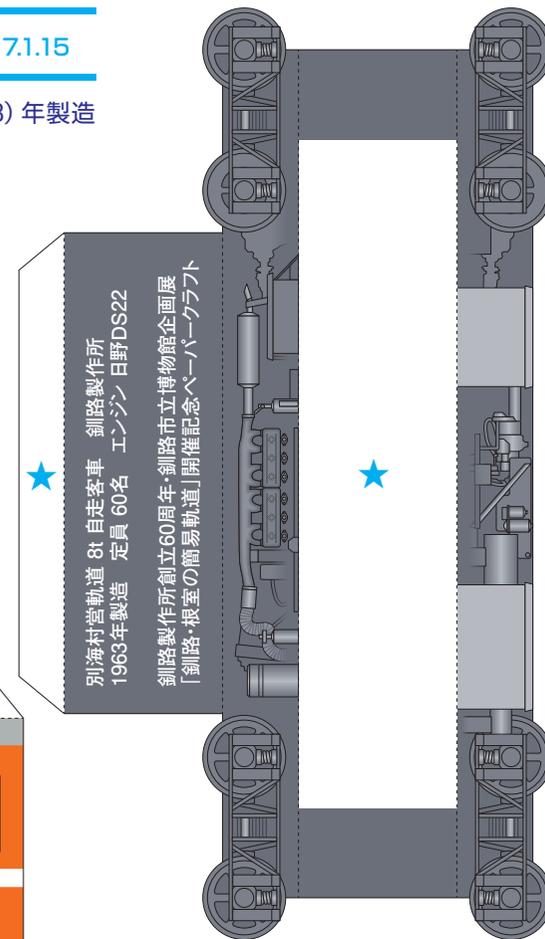
—— 切り取り - - - - 山おり - · - · - 谷おり ★ のりしろ 「別海村営軌道」自走客車 釧路製作所・1963（昭和38）年製造



A
▲ 赤い三角
▼ AからBの間も
▲ 屋根に合わせて
B
山おります。

屋根に取り付けます

屋根に取り付けます



別海村営軌道 8t 自走客車 エンジン 日野DS22
1963年製造 定員 60名
釧路製作所創立60周年・釧路市立博物館企画展
「釧路・根室の簡易軌道」開催記念ペーパークラフト



1964年（昭和39年）ころの釧路・根室 簡易軌道路線図

開拓地は泥炭地も多く、春の融雪期には交通が極めて困難となります。そこで内務省北海道庁は道東・道北を中心に「殖民軌道」を計画、1925（大正14）年、厚床駅~中標津が開通、その後次々と敷設されました。

殖民軌道はレール幅が762mmと国鉄の1067mmに比べ狭く、また動力は馬匹とする簡易なものです。運行組合が設置され、入植者は料金を払い利用しました。また輸送量が大い路線では内燃動力も導入されるようになります（北海道庁直営）。殖民軌道は国鉄線の駅を起点に、より内陸の開拓地へ路線は伸びていきます。

戦後は農林省所管となり「簡易軌道」と呼ばれるようになります。新設改良は国、維持補

修は北海道が受け持ち、実際の管理運営は町・村に委託されました。近代化も押し進められ、馬力から内燃動力化された簡易軌道として釧路・根室地域には鶴居、標茶、浜中、別海の各町・村営軌道がありました。このペーパークラフトは別海村営軌道（奥行臼~上風蓮）で活躍した「自走客車」（国鉄・JRや私鉄でいうディーゼルカー）をモデルにしています。

人々だけでなく農作物、そして牛乳の輸送などに重要な役割を果たしましたが、整備されていく道路に役目を譲り、1972（昭和47）年の浜中町営軌道の廃止によって全て姿を消しました。



おかげさまで60周年

株式会社 釧路製作所

<http://www.kushiro-ses.co.jp>

北海道釧路市川北町9番19号 電話0154-22-7135